



# 分析結果報告書〔3〕 2 / 2

## <イオンクロマトグラフ法>

前記 <蒸留操作>	1. 行う 2. 行わない
留出液 (又は試料) の希釈	希釈倍率 ( ) 注1)
溶離液の種類	1. 水酸化カリウム溶液 2. 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム混合溶液 3. 炭酸ナトリウム溶液 4. 炭酸水素ナトリウム溶液 5. その他( )
ガードカラムの使用	1. 使用する 2. 使用しない
分離カラムの種類 メーカー 型式 注2)	1. ダイオネクス 2. 島津 3. 日立 4. その他( ) ( )
イオンクロマトグラム メーカー 区分 型式 注2) 製造年 (又は導入年)	1. ダイオネクス 2. 島津 3. 日立 4. その他( ) 1. サプレッサー型 2. ノンサプレッサー型 ( ) ( ) 西暦
注入量	( ) $\mu$ L

注1) 蒸留した場合には留出液、蒸留しない場合には試料の希釈倍率を記入する。

希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注2) 型式には機器やカラムの商品名 (型番) を記入する。

## <流れ分析法>

前記 <蒸留操作> 注1)	1. 行う 2. 流れ分析装置内で行う 3. 行わない
留出液 (又は試料) の希釈	希釈倍率 ( ) 注2)
装置 メーカー (型式)  蒸留装置 (型式) 製造年 (又は導入年)	1. ビーエルテック (11. SWAAT-FCN 12. SYNCA 13. その他 ( ) ) 2. 三菱ケミカルナリテック (21. FIA-300M 22. その他 ( ) ) 3. 共立理化学研究所 (31. FIA-F 32. その他 ( ) ) 4. その他 (メーカー: (型式: ) ) 1. 含む (型式: ) 2. 含まない ( ) 西暦
測定条件等 注3)	1. メーカー既定のメソッド 2. その他 ( )
注入量	( ) 注4) 単位 (1. mL 2. mL/分)

注1) 規格三十四・一c)による蒸留操作を行った場合は「1.」を、装置構成に蒸留装置を含む場合は「2.」を選択する。

注2) 蒸留した場合には留出液、蒸留しない場合には試料の希釈倍率を記入する。

希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注3) 装置メーカーの既定メソッドを使用した場合は「1.」を、一部条件 (試薬濃度・ポンプ流速等) を既定メソッドから変更した場合は「2.」を選択し、変更点について括弧内に記載する。

注4) 数値を入力する。

## <検量線の作成等>

定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 内標準物質の指示値	( ) 最小 ( ) ~ 最大 ( ) 注1) ( ) 注2) ( ) 注2)
試料の指示値	対象物質 内標準物質 1回目 ( ) ( ) 注2) 2回目 ( ) ( ) 3回目 ( ) ( )
空試験の指示値	対象物質 内標準物質 ( ) ( ) 注3)
検出下限値	( ) mg/L 注4)

注1) 吸光光度法では分析装置で測定する溶液中の量 ( $\mu$ g)、イオン電極法、イオンクロマトグラフ法又は流れ分析法 (CFA及びFIA法) では分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を記入する。

注2) 対象物質の指示値を記入する。標準添加法では「添加のない試料」の値を記入する。内標準法では検量線最高濃度の内標準物質の指示値についても記入する。

注3) 標準添加法では記入しない。空試験を複数回実施している場合は、平均値や代表的な値を記入する。

注4) 試料中の濃度 (mg/L) を記入する。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--